

令和2年度第3回 新発田市地域公共交通活性化協議会 議事録

1 日 時 令和2年12月17日(木) 午前10時～午前11時

2 場 所 健康長寿アクティブ交流センター 屋内広場

3 出席者

委 員	所属団体・職名	備考
下妻 勇会長	新発田市副市長	
齋藤 亘委員	新潟交通観光バス(株) 新発田営業所長	
庭山奈津子委員	新発田市ハイヤー・タクシー協会会長	
武田 達也委員	国土交通省北陸地方整備局 新潟国道事務所計画課長	
高橋 秀典委員	新発田地域振興局地域整備部長	代理出席：計画調整課 神田課長
大滝 一仁委員	新発田市地域整備課長	代理出席：地域整備課 宮村課長補佐
小島 修委員	NPO 法人七葉理事長	
小野 孝男委員	新発田市自治会連合会	
渡辺 肇委員	川東地区自治連合会	
齋藤 啓一委員	松浦地区公共交通協議会	
佐々木凜太郎委員	国土交通省北陸信越運輸局 交通政策部交通企画課長	代理出席：交通企画課 土橋専門官
大田 尊博委員	国土交通省北陸信越運輸局 新潟運輸支局首席運輸企画専門官	代理出席：近藤首席 運輸企画専門官
仲野 浩将委員	新発田地域振興局企画振興部長	代理出席：高橋地域 振興専門員
早川 英雄委員	日本労働組合総連合会新潟県連合会下 越地域協議会事務局長	代理出席：久志田特別 役員

事務局(市民まちづくり支援課)
渡邊誠一課長、太田貴輝室長、佐藤英美子係長、蒲木みゆき主任、 田中俊介主任

4 会議概要

(1) 開 会

(2) 会長挨拶

本日は、松浦地区のデマンド運行とフィーダー関係の議題が主なものである。ご承知のとおり、新型コロナウイルスによる出控えや学校の休校などの影響で公共交通を取り巻く全体の状況が非常に厳しくなっていると感じている。地域の公共交通という大きなライフラインを支えることは、私どもの市レベルでは限界があると感じている。そう言った意味では、国・県の方にも市長会などを通じて支援策の検討を要望しているところである。

一方で当市の松浦地区デマンド乗合タクシーの実証運行については、後ほど詳しい説明があると思うが、コロナ禍の状況でもほぼ毎日ご利用いただいている方もおり、本当に公共交通を必要とする方の姿が、この状況下であるからこそ、明らかに見えたということである。

公共交通を必要とする方を支えていく、そして、必要とされるものにしていくという、言葉ではシンプルであるが、財源が大きな課題としてある。本日の議題であります松浦地区のデマンド乗合タクシーも今日の実証運行まで齋藤会長様をはじめ地元の皆様、運行を支援していただいているハイヤー・タクシー協会のご協力のもと、ようやく良い運行形態を見出せたと思っているので、感謝を申し上げる。

今年最後の会議となるが、活発なご審議をお願いしたいと思っている。新年度に向けて、全市の公共交通のあり方について、検討作業を進めており、ようやく詰めの段階に入っているところである。2月の定例会の前に議員の皆様にも今後の考え方について説明する予定である。いずれ当会での審議も必要になるかと思うのでご協力をお願い申し上げて、開会に当たっての挨拶とさせていただきます。

(3) 新任委員の紹介

前回の会議以降、役員改選などにより交代された委員として以下の1名を紹介。

- ・日本労働組合総連合会新潟県連合会下越地域協議会事務局長 早川 英雄 様

(4) 議 事

○議長

まずは、本日の会議であるが、規約第9条第2項の規定により、過半数以上の委員の皆様から出席いただいているため、会議が成立していることをご報告申し上げます。

【第1号議案】松浦地区デマンド乗合タクシーの本格運行の実施について

報告事項の松浦地区デマンド乗合タクシーの運行内容変更と合わせ、事務局から資料に基づき説明後、質疑に入る。主な内容は以下のとおり。

- ・運行開始日は令和3年4月1日（木）、運行便数は現行の5便から4便に減便、運行形態は全便定路線迂回型運行、運行区域は月岡温泉地内まで拡大し、2停留所を追加。

○委員

まつうら号につきまして、直近で結果の出ている令和元年度の収支率はどの位か。また、運行計画の利用対象者について、松浦地区及びその近隣地区から新発田駅周辺に通う住民と記載されているが、道路運送法の4条は利用者に制限を持たないものであるため、主な利用者やターゲットと理解して良いか。

○事務局

まつうら号の令和元年度の収支率は6.4%である。参考までに平成30年度は2.9%であったため、運行形態の見直しにより改善している。運行計画の利用対象者については、説明させていただいたとおり令和3年度から月岡温泉地内まで拡大し、月岡温泉まで行かれる方にもご利用していただければと考えており、地域内外問わずどなたでもご利用いただけるものである。

○議長

運行計画の利用対象者の表現を修正するのか、タイトルに「主な」を付けるのか、どうなるか。

○事務局

新潟運輸支局と相談し、必要であれば修正させていただく。

○議長

どのように修正するかは相談させていただき対応するというようお願いしたい。

○委員

川東コミュニティバスにもデマンド導入の話題が出ている。基本的な所でデマンドの停留所について、バスよりも集落の中に入られる印象がある。停留所の間隔についてバスと比較しどれ位まで近づけられるのか。基準があれば教えていただきたい。

○事務局

松浦地区のデマンドバスについては、運行区域図にあるとおりだいたい集落に1つの停留所を設置している。どこに停留所を設置するか地域の方と検討して決定したものである。入り組んだ所にも入っていけることはデマンドのメリットと考えている。

○委員

細かく自由自在に停留所を設置できるわけではないということであるが、その中で停留所までの距離について不満や要望はなかったか。

○事務局

3年間の実証実験の3年目であり、集落に入ってくれて良かったという声をいただいている。一方で停留所を近い間隔でいくつも設置すれば便利になるが、運行経路、時間や経費を相対的に考えると停留所を増やせる状況ではないため、先程申し上げたとおり1地区に1つの停留所の設置を基本としている。この部分については、地域の方との話し合いの中で決めていきたいと考えている。

質疑終了後、議長から諮り、全員異議なく承認された。

【第2号議案】地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について

事務局から資料に基づき説明後、質疑に入る。主な説明内容は以下のとおり。

- ・市街地循環バス（あやめバス）について、事業実施の適切性をAとしたが、目標・効果達成状況をCと評価。目標未達の原因は少雪に加えて新型コロナウイルス感染症に伴う高校の休校や外出自粛の影響もあり、12月以降の利用者が昨年度に対し減少し、年間の乗車人数は前年度比で14.2%減少したことによるものと考えられる。効果を図る指標として設定した新発田駅停留所の利用率、障害者手帳の提示率、回数券利用率の全3項目で前年度を上回った。
- ・川東コミュニティバスについて、事業実施の適切性をAとしたが、目標・効果達成状況をCと評価。理由はあやめバスと同様と考えており、年間の乗車人数は前年度比で13.6%減少した。ただ、高校生の利用が増加傾向にあり、降雪の期間や休校期間以外の利用者は前年度比で増加している。

○委員

今年度の利用状況からコロナ禍で本当にあやめバスを必要としている方が見えていると思う。現在の利用者をどうするかまた現在の利用者以外をどうやって増やすかということは今後あやめバスのことを検討する上で一つの材料になると思うので、協議会の場で検討していただければと感じている。

川東コミュニティバスの③前回の事業評価結果の反映状況について、バス停掲示物や車内掲示物の工夫を行うなどの利用促進ができなかったと記載されているが、④事業実施の適切性をAとしているのでその理由を教えてください。

○事務局

いくつかの項目を記載した中でその内の一つが実施できなかったもので、高校生の利用も定着しており、全体としてはほぼ計画どおりに進められていると判断し、Aと評価した。

○委員

バス停掲示物や車内掲示物の工夫をできなかった代わりに高校生向けに利用促進をしたということか。

○事務局

高校生の利用促進はこれまでよりも少し力を入れて実施し、バス路線の沿線にある高校に対して掲示物の依頼等を積極的に行い、利用促進に努めた。川東コミュニティバスは乗り方が少し複雑であり、掲示物により高齢者に対して乗り方を分かりやすく伝えられれば良かったと考えている。全体的に実施できており、一部のターゲットに対して少し不十分であったということから、Aと評価をした。

○委員

できなかったということではなく、検討を行ったという表現にしても良いと思うが、協議会の判断に一任したい。

○議長

この件について事務局はいかがか。

○事務局

表現を若干修正させていただく方向でよろしいか。

○議長

表現を修正させていただき、中身については事務局に一任し、場合によっては相談させていただくということをお願いしたい。

質疑終了後、議長から諮り、全員異議なく承認された。

5 閉 会